

## 4. 野菜類

### (1) トマト (ミニトマトは含まない)

薬剤名	使用方法	使用時期	使用回数	備考
センコル水和剤	畦間・株間散布	定植活着後～定植14日後まで(雑草発生前～2、3葉期)	1回(メトラジソン1回)	トマト(露地栽培)
トレファノサイド粒剤2.5	全面土壌散布	定植前(植穴掘前)	1回(トリフルアリン1回)	トマト(露地栽培)
トレファノサイド乳剤	全面土壌散布 畦間土壌散布	定植前(植穴掘前) 定植直後		
タッチダウン i Q	雑草茎葉散布	畦間処理：雑草生育期(但し、収穫前日まで)	3回以内(グリホサート3回以内)	

注1) 使用回数の欄の記載は、収穫物への残留回避のため当該剤及びそれぞれの有効成分を含む農薬の総使用回数の制限を示す。

注2) 農薬のラベルに記載されている注意事項を必ず読む。

注3) 農薬登録上の作物名が標記の作物名と異なる場合、備考欄に記載した。

防除時期及び処理法	対象雑草	除草剤の種類及び10a当り使用量	使用法	注意事項
露地定植前(植穴掘前) 全面土壌散布	一年生雑草(ツクサ科、カヤツリグサ科、キク科、アブラナ科を除く)	トレファノサイド乳剤 (トリフルアリン 44.5%) 200～300ml	1. 水100ℓに溶かして噴霧機で均一に散布する。	
		トレファノサイド粒剤2.5 (トリフルアリン 2.5%) 4～5kg	1. 散粒機で散布するか又は土で増量し均一に散布する。	
露地定植直後 畦間土壌散布	一年生雑草(ツクサ科、カヤツリグサ科、キク科、アブラナ科を除く)	トレファノサイド乳剤 (トリフルアリン 44.5%) 200～300ml	1. 水100ℓに溶かして噴霧機で均一に散布する。	
露地定植活着後～定植14日後まで (雑草発生前～2、3葉期) 畦間株間散布	一年生雑草	センコル水和剤 (メトラジソン 50%) 60～100g	1. 水100ℓに溶かして噴霧機で均一に散布する。	1. 薬剤がトマトの茎葉及び他作物にかからないよう散布し、使用后散布機をよく洗う。 2. 土壌が極端に乾燥している場合には効果が劣る。また散布後に多雨が予想される場合には使用を避ける。 3. 有機質含量の低い土壌や砂質土壌では使用を避ける。
生育期 畦間雑草茎葉散布	一年生雑草	タッチダウン i Q (グリホサート・カリウム塩 44.7%) 250～500ml	1. 水25～100ℓに溶かして散布する。少量散布の際には、専用ノズルを使用する。	1. 作物にかからないように散布する。 2. タッチダウン i Qは魚毒に注意する。

## (2) ミニトマト

・参考農薬

薬剤名	対象雑草	使用方法	使用時期	使用量	使用回数	魚毒	備考
トレファノサイド乳剤	一年生雑草(ツクサ科、カヤツクガサ科、キコ科、アブナ科を除く)	全面土壌散布	定植前(植穴掘前)	200～300mℓ/10a	1回(トリフルリン1回)	I	ミニトマト(露地栽培)
		畦間土壌散布	定植直後				
バスタ液剤	一年生雑草	雑草茎葉散布	収穫前日まで(雑草生育期:定植前又は畦間処理)	300～500mℓ/10a	3回以内(ケルホシネット及びグールホシネットP3回以内)	II	

注1) 使用回数の欄の記載は、収穫物への残留回避のため当該剤及びそれぞれの有効成分を含む農薬の総使用回数の制限を示す。

注2) 農薬のラベルに記載されている注意事項を必ず読む。

注3) 農薬登録上の作物名が標記の作物名と異なる場合、備考欄に記載した。

## (3) なす

・参考農薬

薬剤名	対象雑草	使用方法	使用時期	使用量	使用回数	魚毒	備考
クレマート乳剤	一年生雑草	全面土壌散布	定植前又は定植・マルチ前(雑草発生前)	200～400mℓ/10a	1回(ブタホス1回)	I	

注1) 使用回数の欄の記載は、収穫物への残留回避のため当該剤及びそれぞれの有効成分を含む農薬の総使用回数の制限を示す。

注2) 農薬のラベルに記載されている注意事項を必ず読む。

## (4) きゅうり

・参考農薬

薬剤名	対象雑草	使用方法	使用時期	使用量	使用回数	魚毒	備考
クレマートU粒剤	一年生雑草	全面土壌散布	定植前(雑草発生前)	4～6kg/10a	1回(ブタホス1回)	I	
トレファノサイド乳剤	一年生雑草(ツクサ科、カヤツクガサ科、キコ科、アブナ科を除く)	全面土壌散布	は種直後	200～250mℓ/10a	1回(トリフルリン1回)	I	きゅうり(露地栽培)(直播栽培)
			定植前(植穴掘前)				きゅうり(露地栽培)(移植栽培)
		畦間土壌散布	定植直後				
バスタ液剤	一年生雑草	雑草茎葉散布	収穫前日まで(雑草生育期定植前又は畦間処理)	300～500mℓ/10a	3回以内(ケルホシネット及びグールホシネットP3回以内)	II	うり類(未成熟)

注1) 使用回数の欄の記載は、収穫物への残留回避のため当該剤及びそれぞれの有効成分を含む農薬の総使用回数の制限を示す。

注2) 農薬のラベルに記載されている注意事項を必ず読む。

注3) 農薬登録上の作物名が標記の作物名と異なる場合、備考欄に記載した。

## (5) すいか

薬剤名	使用方法	使用時期	使用回数	備考
クレマート乳剤	全面土壌散布	定植・マルチ前（雑草発生前）	1回（フタホス1回）	
プリグロックスL	雑草茎葉散布	畦間処理：雑草生育期（但し、収穫3日前まで）	3回以内（ジクワット3回以内、パテコート3回以内）	

注1) 使用回数の欄の記載は、収穫物への残留回避のため当該剤及びそれぞれの有効成分を含む農薬の総使用回数の制限を示す。

注2) 農薬のラベルに記載されている注意事項を必ず読む。

防除時期及び処理法	対象雑草	除草剤の種類及び10a当り使用量	使用法	注意事項
定植・マルチ（雑草発生前） 全面土壌散布	一年生雑草	クレマート乳剤（フタホス 50%） 300～400mℓ	1. 水 100～150ℓに溶かして噴霧機で均一に散布する。	1. キク科雑草及びツククサに効果が劣るので、これら雑草の優占ほ場では使用しない。
畦間処理 雑草生育期 雑草茎葉散布	一年生雑草	プリグロックスL（ジクワット7%、パテコート5%） 600～1,000mℓ	1. 水 100～150ℓに溶かして噴霧機で均一に散布する。	

### ・参考農薬

薬剤名	対象雑草	使用方法	使用時期	使用量	使用回数	魚毒	備考
バスタ液剤	一年生雑草	雑草茎葉散布	収穫前日まで（雑草生育期：定植前又は畦間処理）	300～500mℓ /10a	2回以内（ケルホシネット及びケルホシネットP2回以内）	Ⅱ	

注1) 使用回数の欄の記載は、収穫物への残留回避のため当該剤及びそれぞれの有効成分を含む農薬の総使用回数の制限を示す。

注2) 農薬のラベルに記載されている注意事項を必ず読む。

## (6) メロン

### ・参考農薬

薬剤名	対象雑草	使用方法	使用時期	使用量	使用回数	魚毒	備考
クレマート乳剤	一年生雑草	全面土壌散布	定植・マルチ前（雑草発生前）	200～400mℓ /10a	1回（フタホス1回）	Ⅰ	
トレファノサイド乳剤	一年生雑草（ツククサ科、カヅリグサ科、キク科、アブラナ科を除く）	全面土壌散布 畦間土壌散布	定植前（植穴掘前）（マルチ前） 収穫45日前までの生育期（トンネル除去前）	150～200mℓ /10a 200～300mℓ /10a	2回以内（トリフルリン2回以内）	Ⅰ	メロン（露地栽培（トンネル・マルチ栽培））
バスタ液剤	一年生雑草	雑草茎葉散布	収穫30日前まで（雑草生育期定植前又は畦間処理）	300～500mℓ /10a	2回以内（ケルホシネット及びケルホシネットP2回以内）	Ⅱ	

注1) 使用回数の欄の記載は、収穫物への残留回避のため当該剤及びそれぞれの有効成分を含む農薬の総使用回数の制限を示す。

注2) 農薬のラベルに記載されている注意事項を必ず読む。

注3) 農薬登録上の作物名が標記の作物名と異なる場合、備考欄に記載した。

## (7) かぼちゃ

・参考農薬

薬剤名	対象雑草	使用方法	使用時期	使用量	使用回数	魚毒	備考
トレファノサイド 粒剤 2.5	一年生雑草(ツユクサ科、カヤツリグサ科、キク科、アブラナ科を除く)	全面土壌散布	定植前(植穴掘前)(マルチ前)	2kg/10a	2回以内(トリフルアリン2回以内)	II	かぼちゃ(トンネル・マルチ栽培)
		畦間土壌散布	収穫45日前までの生育期(トンネル除去前)	4~5kg/10a			

注1) 使用回数の欄の記載は、収穫物への残留回避のため当該剤及びそれぞれの有効成分を含む農薬の総使用回数の制限を示す。

注2) 農薬のラベルに記載されている注意事項を必ず読む。

注3) 農薬登録上の作物名が標記の作物名と異なる場合、備考欄に記載した。

## (8) ズッキーニ

薬剤名	使用方法	使用時期	使用回数	備考
トレファノサイド乳剤	畦間土壌散布	定植直後	1回(トリフルアリン1回)	

注1) 使用回数の欄の記載は、収穫物への残留回避のため当該剤及びそれぞれの有効成分を含む農薬の総使用回数の制限を示す。

注2) 農薬のラベルに記載されている注意事項を必ず読む。

防除時期及び処理法	対象雑草	除草剤の種類及び10a当り使用量	使用法	注意事項
定植直後 雑草発生前 畦間土壌散布	一年生雑草(ツユクサ科、カヤツリグサ科、キク科、アブラナ科を除く)	トレファノサイド乳剤(トリフルアリン 44.5%) 300ml	1. 水 100ℓに溶かし噴霧機で均一に散布する。	

## (9) いちご

・参考農薬

薬剤名	対象雑草	使用方法	使用時期	使用量	使用回数	魚毒	備考
ラッソー乳剤	一年生雑草	全面土壌散布又は株間土壌散布	植付後又は定植後(雑草発生前)(但し、収穫60日前まで)	150~200ml/10a	2回以内(アラキロール2回以内)	I	いちご(本圃) いちご(親株床)
ワンサイドP乳剤	一年生イネ科雑草(スズメノカタビラを除く)	雑草茎葉散布	雑草生育期(イネ科雑草3~5葉期)(但し、収穫後~定植まで)	50~100ml/10a	1回(フルアジホップ P1回)	I	いちご(親株床)

注1) 使用回数の欄の記載は、収穫物への残留回避のため当該剤及びそれぞれの有効成分を含む農薬の総使用回数の制限を示す。

注2) 農薬のラベルに記載されている注意事項を必ず読む。

注3) 農薬登録上の作物名が標記の作物名と異なる場合、備考欄に記載した。

## (10) さやいんげん

・参考農薬

薬剤名	対象雑草	使用方法	使用時期	使用量	使用回数	魚毒	備考
トレファノサイド乳剤	一年生雑草(ツクサ科、カヤツクガサ科、キ科、アブラナ科を除く)	全面土壌散布	は種前(マルチ前)	200~300mℓ/10a	1回(トリフルリン1回)	I	さやいんげん(露地・マルチ栽培)
			は種後				さやいんげん(露地栽培)
トレファノサイド粒剤2.5	一年生雑草(ツクサ科、カヤツクガサ科、キ科、アブラナ科を除く)	全面土壌散布	は種前(マルチ前)	4~6kg/10a	1回(トリフルリン1回)	II	さやいんげん(露地・マルチ栽培)
			は種直後				さやいんげん(露地栽培)

注1) 使用回数の欄の記載は、収穫物への残留回避のため当該剤及びそれぞれの有効成分を含む農薬の総使用回数の制限を示す。

注2) 農薬のラベルに記載されている注意事項を必ず読む。

注3) 農薬登録上の作物名が標記の作物名と異なる場合、備考欄に記載した。

## (11) さやえんどう

・参考農薬

薬剤名	対象雑草	使用方法	使用時期	使用量	使用回数	魚毒	備考
トレファノサイド乳剤	一年生雑草(ツクサ科、カヤツクガサ科、キ科、アブラナ科を除く)	全面土壌散布	は種直後	300mℓ/10a	1回(トリフルリン1回)	I	さやえんどう(露地栽培)
バサグラン液剤(ナトリウム塩)	一年生雑草(イネ科を除く)	雑草茎葉散布又は全面散布	3~6葉期(但し、収穫40日前まで)	100~200mℓ/10a	1回(ヘンタゾン1回)	I	

注1) 使用回数の欄の記載は、収穫物への残留回避のため当該剤及びそれぞれの有効成分を含む農薬の総使用回数の制限を示す。

注2) 農薬のラベルに記載されている注意事項を必ず読む。

注3) 農薬登録上の作物名が標記の作物名と異なる場合、備考欄に記載した。

## (12) えだまめ

薬剤名	使用方法	使用時期	使用回数	備考
クリアターン細粒剤F	全面土壌散布	は種直後（雑草発生前）	1回（ベンチカーブ <sup>®</sup> 1回、ペンテ <sup>®</sup> イメタリン 1回、リニユロン <sup>®</sup> 2回以内（但し、全面土壌散布は1回以内、雑草茎葉兼土壌散布は1回以内））	
クリアターン乳剤	全面土壌散布	は種直後（雑草発生前）	1回（ベンチカーブ <sup>®</sup> 1回、ペンテ <sup>®</sup> イメタリン 1回、リニユロン <sup>®</sup> 2回以内（但し、全面土壌散布は1回以内、雑草茎葉兼土壌散布は1回以内））	
セレクト乳剤	雑草茎葉散布 又は全面散布	雑草生育期（イネ科雑草3～5葉期）（但し、収穫14日前まで）	1回（クレトジム <sup>®</sup> 1回）	
トレファノサイド乳剤	全面土壌散布	は種後出芽前	1回（トリフルリン <sup>®</sup> 2回以内（但し、全面土壌混和及び全面土壌散布は合計1回以内、畦間土壌散布は1回以内））	
バスタ液剤	雑草茎葉散布	収穫前日まで（畦間処理：雑草生育期）	3回以内（ケルボネット及びケルボネットP3回以内）	
ポルトフロアブル	雑草茎葉散布 又は全面散布	雑草生育期（イネ科雑草3～8葉期）（但し、収穫14日前まで）	1回（キア <sup>®</sup> ロップ <sup>®</sup> エチル 1回）	
ラクサー乳剤	全面土壌散布	は種後出芽前（雑草発生前）	1回（アラクロール <sup>®</sup> 1回、リニユロン <sup>®</sup> 2回以内（但し、全面土壌散布は1回以内、雑草茎葉兼土壌散布は1回以内））	
ラクサー粒剤	全面土壌散布	は種後出芽前（雑草発生前）	1回（アラクロール <sup>®</sup> 1回、リニユロン <sup>®</sup> 2回以内（但し、全面土壌散布は1回以内、雑草茎葉兼土壌散布は1回以内））	
ロロックス	全面土壌散布	は種直後～出芽前（雑草発生前～発生始期）	1回（リニユロン <sup>®</sup> 2回以内（但し、全面土壌散布は1回以内、雑草茎葉兼土壌散布は1回以内））	

注1) 使用回数の欄の記載は、収穫物への残留回避のため当該剤及びそれぞれの有効成分を含む農薬の総使用回数の制限を示す。

注2) 農薬のラベルに記載されている注意事項を必ず読む。

防除時期及び処理法	対象雑草	除草剤の種類及び10a当り使用量	使用法	注意事項
は種直後 雑草発生前 全面土壌散布	一年生雑草	クリアターン細粒剤F (ベンチカーブ <sup>®</sup> 8%、 ペンテ <sup>®</sup> イメタリン 0.8%、 リニユロン <sup>®</sup> 1.2%) 4～5kg	1. 散粒機又は土で増量し、均一に散布する。	
		クリアターン乳剤 (ベンチカーブ <sup>®</sup> 50%、 ペンテ <sup>®</sup> イメタリン 5%、 リニユロン <sup>®</sup> 7.5%) 500～800ml	1. 水 1000lに溶かし噴霧機で均一に散布する。	
は種後発芽前 全面土壌散布	一年生雑草 (ツユクサ科、 カヤツリグサ科、キク科、アブラナ科を除く)	トレファノサイド乳剤 (トリフルリン <sup>®</sup> 44.5%) 200～300ml	1. 水 1000lに溶かし噴霧機で均一に散布する。	

防除時期及び処理法	対象雑草	除草剤の種類及び10a当り使用量	使用法	注意事項
は種後出芽前 雑草発生前 全面土壌散布	一年生雑草	ラクサー乳剤 (アラクロール 30%、 リニユロン 12%) 400～600ml	1. 水 1000に溶かし 噴霧機で均一に 散布する。	1. 砂質土の保水力の小 さいほ場では使用し ない。
		ラクサー粒剤 (アラクロール 4%、 リニユロン 1.04%) 4～6 kg	1. 散粒機又は土で 増量し、均一に 散布する。	1. 砂質土の保水力の小 さいほ場では使用し ない。
は種直後～出芽前 雑草発生前～発 生始期 全面土壌散布	一年生雑草	ロロックス (リニユロン 50%) 100～200g	1. 水 70～1500に溶 かし噴霧機で均 一に散布する。	
雑草生育期 イネ科雑草 3～ 5葉期 収穫 14 日前ま で 雑草茎葉散布	一年生イネ科雑 草 (スズメノカ タバを除外)	セレクト乳剤 (クレジム 24%) 35～50ml	1. 水 1000に溶かし 噴霧機で均一に 散布する。	1. 雑草が大きくなりす ぎると効果が劣るの で、時機を逸しない よう散布する。 2. やや遅効性で、イネ 科雑草を完全に枯殺 するまでに通常 1 週 間から 2 週間前後を 要する。
雑草生育期 イネ科雑草 3～ 5葉期 収穫 14 日前ま で 雑草茎葉散布	一年生イネ科雑 草 (スズメノカ タバを除外)	ポルトフロアブル (キサロホップ エチル 7%) 200～300ml	1. 水 1000に溶かし 噴霧機で均一に 散布する。	1. イネ科雑草を完全に 枯殺するまでに約 1 週間を要する。
雑草生育期 収穫前日まで 畦間雑草茎葉散 布	一年生雑草	バスタ液剤 (ケルホネット 18.5%) 300～500ml	1. 水 100～1500に溶 かし噴霧機で均 一に散布する。	1. 散布後 6 時間以内の 降雨は効果を減ずる ことがあるので、天 候を良く見極めてか ら散布する。

### (13) オクラ

・参考農薬

薬剤名	対象雑草	使用方法	使用時期	使用量	使用回数	魚毒	備考
バスタ液剤	一年生雑草	雑草茎葉散 布	収穫前日ま で (雑草生 育期：は種 前又は畦間 処理)	300～500ml /10a	3 回以内 (ケル ホネット及びケ ルホネット P3 回 以内)	Ⅱ	

注1) 使用回数の欄の記載は、収穫物への残留回避のため当該剤及びそれぞれの有効成分を含む農薬の総使用回数の制限を示す。

注2) 農薬のラベルに記載されている注意事項を必ず読む。

## (14) みょうが

・参考農薬

薬剤名	対象雑草	使用方法	使用時期	使用量	使用回数	魚毒	備考
トレファノサイド粒剤 2.5	一年生雑草 (ツクシ科、カヤツリグサ科、キ科、アブラナ科を除く)	全面土壌散布	萌芽前 (雑草発生前)	6kg/10a	1回(トリフルリン1回)	II	みょうが (花穂)
プリグロックスL	一年生雑草	雑草茎葉散布	萌芽前	600～ 1000mℓ /10a	2回以内 (ジクワット2回以内、ハラクート2回以内)	II	みょうが (花穂)
			畦間処理：雑草生育期 (但し、収穫30日前まで)				畦間処理：雑草生育期 (但し、みょうが(花穂)の収穫30日前まで、花穂を収穫しない場合にあつては開花期終了まで)

注1) 使用回数の欄の記載は、収穫物への残留回避のため当該剤及びそれぞれの有効成分を含む農薬の総使用回数の制限を示す。

注2) 農薬のラベルに記載されている注意事項を必ず読む。

注3) 農薬登録上の作物名が標記の作物名と異なる場合、備考欄に記載した。

## (15) キャベツ

薬剤名	使用方法	使用時期	使用回数	備考
アグロマックス水和剤	全面土壌散布	定植直後雑草発生前	1回(プロピザミド1回)	
クレマート乳剤	全面土壌散布	定植前 (雑草発生前)	1回(プロタホス1回)	
トレファノサイド粒剤 2.5	全面土壌散布	定植前 (植穴掘前)	1回(トリフルリン1回)	キャベツ (移植栽培)
トレファノサイド乳剤	畦間土壌散布	定植直後		
フィールドスターP乳剤	全面土壌散布	定植後 (雑草発生前) (但し、定植後10日まで)	1回(ジメナミド及びジメナミド P1回)	
ラウンドアップマックスロード	雑草茎葉散布	耕起前又は定植5日前まで (雑草生育期)	1回(グリホサート1回)	
ラッソー乳剤	全面土壌散布	定植8日後まで	1回(アラクロール1回)	

注1) 使用回数の欄の記載は、収穫物への残留回避のため当該剤及びそれぞれの有効成分を含む農薬の総使用回数の制限を示す。

注2) 農薬のラベルに記載されている注意事項を必ず読む。

注3) 農薬登録上の作物名が標記の作物名と異なる場合、備考欄に記載した。



防除時期及び処理法	対象雑草	除草剤の種類及び10a当り使用量	使用法	注意事項
耕起前または定植5日前まで (雑草生育期) 雑草茎葉散布	一年生雑草	ラウンドアップマックスロード (グリホサート・カリウム塩 48%) 500ml	1. 通常散布では水 50～100ℓに、少量散布(専用ノズル使用)では水 25～50ℓに溶かして、噴霧機で均一に散布する。	1. 飛散防止カバーを使用し、作物体にかからないように散布する。 2. 「東日本大震災により津波被害を受けた農地専用ラウンドアップマックスロード」は長野県では使えない。 3. ラウンドアップマックスロードは、魚毒に注意する。
定植前(雑草発生前) 全面土壌散布	一年生雑草	クレマート乳剤 (ブタミス 50%) 200～400ml	1. 水 100～150ℓに溶かし、噴霧機で均一に散布する。	1. キク科雑草に対しては、やや効果が劣る。
定植前(植穴掘前) 全面土壌散布	一年生雑草 (ツユクサ科、カヤツリグサ科、キク科、アブラナ科を除く)	トレファノサイド粒剤 2.5 (トリフルリン 2.5%) 4 kg	1. 散粒機又は土で増量し、均一に散布する。	
	一年生雑草 (ツユクサ科、カヤツリグサ科、キク科、アブラナ科を除く)	トレファノサイド乳剤 (トリフルリン 44.5%) 250ml	1. 水 100ℓに溶かし、噴霧機で均一に散布する。	
定植直後 畦間土壌散布	一年生雑草 (ツユクサ科、カヤツリグサ科、キク科、アブラナ科を除く)	トレファノサイド乳剤 (トリフルリン 44.5%) 250ml	1. 水 100ℓに溶かし噴霧機で均一に散布する。	
定植8日後まで 全面土壌散布	一年生雑草	ラッソー乳剤 (アラクロール 43%) 150～200ml	1. 水 100ℓに溶かし噴霧機で均一に散布する。	1. 他作物への薬剤飛散に注意する。 2. タデ科、アカザ科雑草にやや効果が劣る。
定植後(雑草発生前) (定植後 10 日まで) 全面土壌散布	畑地一年生雑草 (アカザ科、アブラナ科、タデ科を除く)	フィールドスターP乳剤 (ジメチアミド P 64%) 50～75ml	1. 水 100ℓに溶かし噴霧機で均一に散布する。	1. レタスに飛散すると薬害が生じるので、かからないように注意する。
定植直後 雑草発生前 全面土壌散布	一年生雑草 (キク科、カヤツリグサ科を除く)	アグロマックス水和剤 (プロピザミド 50%) 300 g	1. 水 100ℓに溶かし噴霧機で均一に散布する。	

## (16) カリフラワー

・参考農薬

薬剤名	対象雑草	使用方法	使用時期	使用量	使用回数	魚毒	備考
ゴーゴーサン乳剤	一年生雑草	全面土壌散布	定植前（雑草発生前）	200～400ml /10a	1回（ペンテメタリン1回）	I	
プリグロックスL	一年生雑草	雑草茎葉散布	畦間処理：雑草生育期（但し、収穫30日前まで）	600～1000 ml /10a	3回以内（ジクワット3回以内、パラコート3回以内）	II	

注1) 使用回数の欄の記載は、収穫物への残留回避のため当該剤及びそれぞれの有効成分を含む農薬の総使用回数の制限を示す。

注2) 農薬のラベルに記載されている注意事項を必ず読む。

注3) 農薬登録上の作物名が標記の作物名と異なる場合、備考欄に記載した。

## (17) ブロッコリー

薬剤名	使用方法	使用時期	使用回数	備考
アグロマックス水和剤	全面土壌散布	定植後雑草発生前（但し、定植14日後まで）	1回（プロピザミド1回）	
トレファノサイド粒剤 2.5	全面土壌散布	定植前（植穴掘前）	1回（トリフルリン1回）	ブロッコリー（移植栽培）
フィールドスターP乳剤	全面土壌散布	定植後（雑草発生前）但し収穫30日前まで	1回（ジメナミド及びジメナミドP1回）	

注1) 使用回数の欄の記載は、収穫物への残留回避のため当該剤及びそれぞれの有効成分を含む農薬の総使用回数の制限を示す。

注2) 農薬のラベルに記載されている注意事項を必ず読む。

防除時期及び処理法	対象雑草	除草剤の種類及び10a当り使用量	使用法	注意事項
定植前（植穴掘前） 全面土壌散布	一年生雑草（ツユクサ科、カヤツリグサ科、キク科、アブラナ科を除く）	トレファノサイド粒剤 2.5（トリフルリン2.5%） 4～6kg	1. 散粒機又は土で増量し、均一に散布する。	
定植後雑草発生前（定植後14日まで） 全面土壌散布	一年生雑草（キク科、カヤツリグサ科を除く）	アグロマックス水和剤（プロピザミド50%） 200～300g	1. 水1000に溶かし噴霧機で均一に散布する。	
定植後（雑草発生前）但し収穫30日前まで 全面土壌散布	一年生雑草（アカザ科、アブラナ科、タデ科を除く）	フィールドスターP乳剤（ジメナミドP64%） 50～75ml	1. 水1000に溶かし噴霧機で均一に散布する。	

・参考農薬

薬剤名	対象雑草	使用方法	使用時期	使用量	使用回数	魚毒	備考
クレマート乳剤	一年生雑草	全面土壌散布	定植前（雑草発生前）	200ml /10a	1回（ブタホス1回）	I	
プリグロックスL	一年生雑草	雑草茎葉散布	畦間処理：雑草生育期（但し、収穫3日前まで）	600～1000 ml /10a	3回以内（ジクワット3回以内、パラコート3回以内）	II	

注1) 使用回数の欄の記載は、収穫物への残留回避のため当該剤及びそれぞれの有効成分を含む農薬の総使用回数の制限を示す。

注2) 農薬のラベルに記載されている注意事項を必ず読む。

## (18) はくさい

薬剤名	使用方法	使用時期	使用回数	備考
トレファノサイド粒剤 2.5	全面土壌散布	は種直後	1回(トリフルリン1回)	はくさい(直播栽培)
		定植前(植穴掘前)		はくさい(移植栽培)
トレファノサイド乳剤	全面土壌散布	は種直後		はくさい(直播栽培)
		定植前(植穴掘前)		はくさい(移植栽培)
	畦間土壌散布	定植直後		

注1) 使用回数の欄の記載は、収穫物への残留回避のため当該剤及びそれぞれの有効成分を含む農薬の総使用回数の制限を示す。

注2) 農薬のラベルに記載されている注意事項を必ず読む。

注3) 農薬登録上の作物名が標記の作物名と異なる場合、備考欄に記載した。

防除時期及び処理法	対象雑草	除草剤の種類及び10a当り使用量	使用法	注意事項
直まきは種直後 全面土壌散布	一年生雑草 (ツユクサ科、カヤツリグサ科、キク科、アブラナ科を除く)	トレファノサイド乳剤 (トリフルリン 44.5%) 200~250ml	1. 水100lに溶かし噴霧機で均一に全面散布する。	1. ポリマルチ直まき栽培では、トレファノサイド乳剤の薬害がでやすいので使用しない。
		トレファノサイド粒剤2.5 (トリフルリン 2.5%) 3~4kg	1. 散粒機又は土で増量し均一に散布する。	
定植前(植穴掘前) 全面土壌散布	一年生雑草 (ツユクサ科、カヤツリグサ科、キク科、アブラナ科を除く)	トレファノサイド乳剤 (トリフルリン 44.5%) 200~250ml	1. 水100lに溶かし噴霧機で均一に全面散布する。	1. 粒剤は、苗床や直まきのマルチ栽培では薬害がでやすいので使用しない。
		トレファノサイド粒剤2.5 (トリフルリン 2.5%) 4kg	1. 散粒機又は土で増量し均一に散布する。	
定植直後 畦間土壌散布	一年生雑草 (ツユクサ科、カヤツリグサ科、キク科、アブラナ科を除く)	トレファノサイド乳剤 (トリフルリン 44.5%) 200~250ml	1. 水100lに溶かし噴霧機で均一に散布する。	

### ・参考農薬

薬剤名	対象雑草	使用方法	使用時期	使用量	使用回数	魚毒	備考
バスタ液剤	一年生雑草	雑草茎葉散布	収穫45日前まで(雑草生育期:定植前又は畦間処理)	300~500ml/10a	2回以内(ケルホソネット及びケルホソネットP2回以内)	II	

注1) 使用回数の欄の記載は、収穫物への残留回避のため当該剤及びそれぞれの有効成分を含む農薬の総使用回数の制限を示す。

注2) 農薬のラベルに記載されている注意事項を必ず読む。

## (19) ほうれんそう

・参考農薬

薬剤名	対象雑草	使用方法	使用時期	使用量	使用回数	魚毒	備考
アージラン液剤	一年生雑草	全面土壌散布	は種後～子葉展開期	秋播き 600～800ml/10a 春～初夏播き 800～1000 ml /10a 但し、芽出し播きは 800ml/10a	1回(アシュラム 1回)	I	
ラッソー乳剤	一年生雑草	全面土壌散布	は種直後	150ml /10a	1回(アラクロール 1回)	I	

注1) 使用回数の欄の記載は、収穫物への残留回避のため当該剤及びそれぞれの有効成分を含む農薬の総使用回数の制限を示す。

注2) 農薬のラベルに記載されている注意事項を必ず読む。

## (20) レタス (玉レタス)

薬剤名	使用方法	使用時期	使用回数	備考
アグロマックス水和剤	全面土壌散布	定植後雑草発生前 (但し、定植 14 日後まで) 定植前	1回(プロピザミド 1回)	レタス(春播栽培)
トレファノサイド乳剤	全面土壌散布 畦間土壌散布	定植前 (植穴掘前) 定植直後	1回(トリフルリン 1回)	レタス(露地栽培)

注1) 使用回数の欄の記載は、収穫物への残留回避のため当該剤及びそれぞれの有効成分を含む農薬の総使用回数の制限を示す。

注2) 農薬のラベルに記載されている注意事項を必ず読む。

注3) 農薬登録上の作物名が標記の作物名と異なる場合、備考欄に記載した。

防除時期及び処理法	対象雑草	除草剤の種類及び10a当り使用量	使用法	注意事項
定植前(植穴掘前) 全面土壌散布 定植直後 畦間土壌表面散布	一年生雑草 (ツクサ科、カヤツリグサ科、キク科、アブラナ科を除く)	トレファノサイド乳剤 (トリフルリン 44.5%) 200～250ml	1. 水 1000に溶かし、噴霧機で散布する。	1. 使用上の注意事項は、はくさいに準ずる。 2. 葉にかからないように散布する。
定植前 全面土壌散布 定植後雑草発生前 (定植 14 日後まで) 全面土壌散布	一年生雑草 (キク科、カヤツリグサ科を除く)	アグロマックス水和剤 (プロピザミド 50%) 200～300 g	1. 水 70～1000に溶かし噴霧機で均一に散布する。	1. 乾燥ぎみの天候や雑草発後処理では効果が劣る。 2. 高温時の処理は効果の持続期間が短い。

・参考農薬

薬剤名	対象雑草	使用方法	使用時期	使用量	使用回数	魚毒	備考
バスタ液剤	一年生雑草	雑草茎葉散布	収穫 30 日前まで (雑草生育期：耕起前・定植前又は畦間処理)	300～500ml /10a	2回以内(ケルホソネット及びケルホソネット P2 回以内)	II	

注1) 使用回数の欄の記載は、収穫物への残留回避のため当該剤及びそれぞれの有効成分を含む農薬の総使用回数の制限を示す。

注2) 農薬のラベルに記載されている注意事項を必ず読む。

## (21) 非結球レタス（リーフレタス、ロメインレタス）

・参考農薬

薬剤名	対象雑草	使用方法	使用時期	使用量	使用回数	魚毒	備考
トレファノサイド乳剤	一年生雑草(ツユクサ科、カヤツクガサ科、キク科、アブら科を除く)	全面土壌散布	定植前(植穴掘前)	200～300mℓ/10a	1回(トリフルリン1回)	I	非結球レタス(露地栽培)
		畦間土壌散布	定植直後				
バスタ液剤	一年生雑草	雑草茎葉散布	収穫30日前まで(雑草生育期:耕起前・定植前又は畦間処理)	300～500mℓ/10a	2回以内(ケルボソネット及びびケルボソネットP2回以内)	II	

注1) 使用回数の欄の記載は、収穫物への残留回避のため当該剤及びそれぞれの有効成分を含む農薬の総使用回数の制限を示す。

注2) 農薬のラベルに記載されている注意事項を必ず読む。

注3) 農薬登録上の作物名が標記の作物名と異なる場合、備考欄に記載した。

## (22) セルリー

薬剤名	使用方法	使用時期	使用回数	備考
ナブ乳剤	雑草茎葉散布又は全面散布	雑草生育期(イネ科雑草3～6葉期)(但し、収穫28日前まで)	2回以内(セトキシム2回以内)	

注1) 使用回数の欄の記載は、収穫物への残留回避のため当該剤及びそれぞれの有効成分を含む農薬の総使用回数の制限を示す。

注2) 農薬のラベルに記載されている注意事項を必ず読む。

防除時期及び処理法	対象雑草	除草剤の種類及び10a当り使用量	使用法	注意事項
雑草生育期 雑草茎葉散布又は全面散布	一年生イネ科雑草(スズメノカタビラを除く)	ナブ乳剤(セトキシム20%) 150～200mℓ	1. 水100～150ℓに溶かし噴霧機で雑草の茎葉全体に均一に散布する。	1. 雑草茎葉にかかるよう、まきむらのないよう均一に散布する。 2. 広葉雑草には効果がないのでイネ科雑草優占場で使用する。

・参考農薬

薬剤名	対象雑草	使用方法	使用時期	使用量	使用回数	魚毒	備考
ロロックス	一年生雑草	畦間土壌散布	定植後(但し、定植7日後まで)(雑草発生前)	100～150g/10a	1回(リニロン1回)	I	

注1) 使用回数の欄の記載は、収穫物への残留回避のため当該剤及びそれぞれの有効成分を含む農薬の総使用回数の制限を示す。

注2) 農薬のラベルに記載されている注意事項を必ず読む。

## (23) パセリ

・参考農薬

薬剤名	対象雑草	使用方法	使用時期	使用量	使用回数	魚毒	備考
クレマート乳剤	一年生雑草	全面土壌散布	は種後発芽前(雑草発生前)	200～400mℓ/10a	1回(フタホス1回)	I	

注1) 使用回数の欄の記載は、収穫物への残留回避のため当該剤及びそれぞれの有効成分を含む農薬の総使用回数の制限を示す。

注2) 農薬のラベルに記載されている注意事項を必ず読む。

## (24) アスパラガス

薬剤名	使用方法	使用時期	使用回数	備考
グラメックス水和剤	全面土壌散布	萌芽前又は収穫後（雑草発生前）	1回（シアジソン1回）	
ゴーゴーサン細粒剤F	全面土壌散布	萌芽前（雑草発生前）	1回（ペンテメタリン1回）	
ゴーゴーサン乳剤	全面土壌散布	萌芽前（雑草発生前）	1回（ペンテメタリン1回）	
ザクサ液剤	雑草茎葉散布	収穫打ち切り後（雑草生育期）	2回以内（グリホネート及びグリホネートP2回以内）	
センコル水和剤	雑草茎葉散布又は全面土壌散布	萌芽前～萌芽始期	1回（トリブジン1回）	
		収穫打ち切り後（雑草発生前～4、5葉期）		
タッチダウンiQ	雑草茎葉散布	畦間処理：雑草生育期（但し、収穫前日まで）	3回以内（グリホネート3回以内）	
トレファノサイド乳剤	全面土壌散布	萌芽前又は収穫打ち切り後（雑草発生前）	1回（トリフルリン1回）	
ナブ乳剤	雑草茎葉散布又は全面散布	雑草生育期（イネ科雑草3～5葉期）（但し、収穫前日まで）	1回（セトキシム1回）	
バスタ液剤	雑草茎葉散布	収穫前日まで（雑草生育期：萌芽前又は畦間処理）	2回以内（グリホネート及びグリホネートP2回以内）	
プリグロックスL	雑草茎葉散布	畦間処理：雑草生育期（但し、収穫前日まで）	3回以内（ジクワット3回以内、パラコート3回以内）	
		萌芽前：雑草生育期（草丈20cm以下）		
ロロックス	全面土壌散布	萌芽前（雑草発生前～発生始期）	1回（リニロン2回以内（但し全面土壌散布は1回以内、雑草茎葉兼土壌散布は1回以内））	
ワンサイドP乳剤	雑草茎葉散布又は全面散布	雑草生育期（イネ科雑草3～5葉期）（但し、収穫前日まで）	2回以内（フリンジホップ及びフリンジホップP2回以内）	

注1) 使用回数の欄の記載は、収穫物への残留回避のため当該剤及びそれぞれの有効成分を含む農薬の総使用回数の制限を示す。

注2) 農薬のラベルに記載されている注意事項を必ず読む。

防除時期及び処理法	対象雑草	除草剤の種類及び10a当り使用量	使用法	注意事項
萌芽前（雑草発生前） 全面土壌散布	一年生雑草	ゴーゴーサン細粒剤F （ペンテメタリン 2%） 4～6 kg	1. 散粒機を用いるなどして均一に散布する。	1. 有機質含量の低い土壌や砂質土壌では使用を避ける。 2. 土壌が極端に乾燥している場合には効果が劣る。また、散布後に多雨が予想される場合は使用を避ける。 3. 1～2年生株や高畦栽培など根群の浅い場合は薬害の恐れがあるので注意する。 4. マルチ、トンネル栽培では使用しない。ハウス栽培の高温期には使用を避ける。 5. ゴーゴーサン細粒剤Fおよびゴーゴーサン乳剤は、キク科雑草とツユクサに効果が劣るので、これら雑草の優先ほ場では使用を控える。
萌芽前（雑草発生前～発生始期） 全面土壌散布	一年生雑草	ロロックス （リニロン 50%） 150～200 g	1. 水1000に溶かして噴霧機で均一に散布する。	
萌芽前（雑草発生前） 全面土壌散布		ゴーゴーサン乳剤 （ペンテメタリン 30%） 200～400ml		
萌芽前、収穫打ち切り後 （雑草発生前） 全面土壌散布	一年生雑草 （ツユクサ科、カヤツリグサ科、キク科、アブラナ科を除く）	トレファノサイド乳剤 （トリフルリン 44.5%） 200～300ml	1. 水1000に溶かし噴霧機で均一に散布する。	

防除時期及び処理法	対象雑草	除草剤の種類及び10a当り使用量	使用法	注意事項
萌芽前～萌芽始期又は収穫打切後（雑草発生前～4、5葉期） 雑草茎葉散布又は全面土壌散布	一年生雑草	センコル水和剤 (トリブジン 50%) 100～150g	1. 水 100ℓに溶かし噴霧機で均一に散布する。	6. ロロックスは雑草発生始期まで効果がある。 7. センコル水和剤は雑草4～5葉期まで、グラメックス水和剤は2～3葉期まで効果がある。 8. センコル水和剤とグラメックス水和剤は、付近の作物にかからないように散布する。 9. 萌芽前と収穫打ち切り後2回処理する場合は、除草剤の種類をかえて使用する。
萌芽前又は収穫後 (雑草発生前) 全面土壌散布	一年生雑草	グラメックス水和剤 (シアナジン 50%) 100～200g	1. 水 100ℓに溶かし噴霧機で均一に散布する。	
萌芽前（雑草生育期） 雑草茎葉散布	一年生雑草	プリグロックスL (ジクワット7%、パラコート5%) 600～1,000ml バスタ液剤 (グルホシネート18.5%) 300～500ml	1. 水 100～150ℓに溶かし噴霧機で雑草の茎葉全体に均一に散布する。	
雑草生育期 イネ科雑草3～5葉期 雑草茎葉散布	一年生イネ科雑草 (スズメノカタビラを除く)	ナブ乳剤 (セトキシム 20%) 150～200ml	1. 水 100ℓに溶かし噴霧機で雑草の茎葉全体に均一に散布する。	1. 広葉雑草には効果がないのでイネ科雑草優占ほ場で使用する。また広葉雑草が混在する場合は他の土壌処理剤との体系で使用する。 2. 展着剤を加用すると効果が高まる。 3. イネ科作物には薬害があるので飛散しないように注意する。
雑草生育期 畦間雑草茎葉散布	一年生雑草	バスタ液剤 (グルホシネート 18.5%) 300～500ml	1. 水 100～150ℓに溶かし噴霧機で雑草の茎葉全体に均一に散布する。	1. 萌芽直前の処理は薬害の恐れがあるので、早めに散布する。 2. 生育期処理では、アスパラガスの茎葉にかからないように注意する。 3. 散布後6時間以内に降雨があると効果が減ずるため、天候をよく見て散布する。
畦間処理 雑草生育期 雑草茎葉散布	一年生雑草	プリグロックスL (ジクワット7%、パラコート5%) 600～1,000ml	1. 水 100～150ℓに溶かし噴霧機で雑草の茎葉全体に均一に散布する。	
畦間処理 雑草生育期 雑草茎葉散布	スギナ	タッチダウン i Q (グリホサート・カリウム塩 44.7%) 1,500～2,000ml	1. 水 25～50ℓに溶かし、噴霧機で均一に散布する。	1. アスパラガス及び周囲の作物に飛散しないように注意する。 2. 少量散布用ノズルを使用する。 3. スギナ展葉前及び生育盛期以降、他雑草に埋没している時期の散布は効果が劣る。 4. 効果の最大時期は、散布後2～3週間である。 5. 「東日本大震災により津波被害を受けた農地専用タッチダウン iQ」は長野県では使えない。 6. タッチダウン iQは、魚毒に注意する。

防除時期及び処理法	対象雑草	除草剤の種類及び10a当り使用量	使用法	注意事項
雑草生育期 イネ科雑草3～5葉期 雑草茎葉散布	一年生イネ科雑草(スズメノカタビラを除く)	ワンサイドP乳剤(フルジホップP 17.5%) 50～100ml	1. 70～100ℓに溶かし、噴霧機で均一に散布する。	1. イネ科作物に飛散しないように注意する。
収穫打ち切り後 雑草生育期 雑草茎葉散布	一年生雑草及び多年生広葉雑草	ザクサ液剤(ガルホシネートPナトリウム塩 11.5%) 500ml	1. 水 100～150ℓに溶かし噴霧機で雑草の茎葉全体に均一に散布する。	1. 収穫打ち切り後にうね上へ散布する場合、萌芽している若茎に薬剤が付着すると若茎全体が褐変、伸長停止、曲がりなどの薬害を生じるおそれがあるので、散布後新たに萌芽した若茎を用いて立茎する。

## (25) うど

・参考農薬

薬剤名	対象雑草	使用方法	使用時期	使用量	使用回数	魚毒	備考
クレマート乳剤	一年生雑草	全面土壌散布	定植後出芽前(根株養成圃)(雑草発生前)	200ml/10a	1回(ブタミホ1回)	I	
プリグロックスL	一年生雑草	雑草茎葉散布	畦間処理: 雑草生育期(根株養成期)(但し、収穫75日前まで)	600～1000ml/10a	2回以内(ジクワット2回以内、パラコート2回以内)	II	

注1) 使用回数の欄の記載は、収穫物への残留回避のため当該剤及びそれぞれの有効成分を含む農薬の総使用回数の制限を示す。

注2) 農薬のラベルに記載されている注意事項を必ず読む。

## (26) たまねぎ

薬剤名	使用方法	使用時期	使用回数	備考
アクチノールB乳剤	雑草茎葉散布	秋播栽培の早春期(雑草生育初期)(但し、収穫30日前まで)	2回以内(アイキシール2回以内)	たまねぎ(移植栽培)
アグロマックス水和剤	全面土壌散布	定植後雑草発生前(但し、収穫45日前まで)	2回以内(プロピザミド2回以内)	たまねぎ(秋播栽培)
クロロIPC	全面土壌散布	定植活着後又は中耕後(但し、収穫30日前まで)	2回以内(IPC2回以内)	
ゴーゴーサン乳剤	全面土壌散布	定植後(雑草発生前)(但し、収穫30日前まで)	1回(ペンテイメタリン1回)	たまねぎ(移植栽培)
セレクト乳剤	雑草茎葉散布又は全面散布	雑草生育期(イネ科雑草3～5葉期)(但し、収穫21日前まで)	3回以内(クレジム3回以内)	
トレファノサイド粒剤2.5	全面土壌散布	定植後(但し、収穫75日前まで)	2回以内(トリフルアリン2回以内)	たまねぎ(本畑)
	畦間土壌散布	生育期(春期)(但し、収穫75日前まで)		
ホーネスト乳剤	雑草茎葉散布又は全面散布	雑草生育期(イネ科雑草3～5葉期)(但し、収穫14日前まで)	2回以内(テトラロキシム2回以内)	
モーティブ乳剤	全面土壌散布	定植後(雑草発生前)(但し、定植45日後まで)	1回(ジメナミド及びジメナミドP1回、ペンテイメタリン1回)	
ワンサイドP乳剤	雑草茎葉散布又は全面散布	雑草生育期(イネ科雑草3～5葉期)(但し、収穫30日前まで)	1回(フルジホップP1回)	

注1) 使用回数の欄の記載は、収穫物への残留回避のため当該剤及びそれぞれの有効成分を含む農薬の総使用回数の制限を示す。

注2) 農薬のラベルに記載されている注意事項を必ず読む。

注3) 農薬登録上の作物名が標記の作物名と異なる場合、備考欄に記載した。



防除時期及び処理法	対象雑草	除草剤の種類及び10a当り使用量	使用法	注意事項
定植活着後又は 中耕後 全面土壌散布	一年生雑草	クロロ IPC (IPC 45.8%) 300mℓ	1. 水 70～100ℓ に溶かし噴霧機で散布する。	1. 春先はできるだけ早く散布する。
定植後 全面土壌散布	一年生雑草 (ツユクサ科、カヤツリグサ科、キク科、アブラナ科を除く)	トレファノサイド 粒剤 2.5 (トリフルリン 2.5%) 4～5kg	1. 散粒機で散布するか、又は土で増量し均一に散布する。	
生育期 (春期) 畦間土壌散布				
定植後 (雑草発生前) 全面土壌散布	一年生雑草	ゴーゴーサン乳剤 (ペンテメタリン 30%) 300～500mℓ	1. 水 70～100ℓ に溶かして噴霧機で均一に散布する。	1. キク科雑草及びツユクサは効果が劣るので、これらの優占ほ場では使用しない。
定植後 雑草発生前 全面土壌散布	一年生雑草 (キク科、カヤツリグサ科を除く)	アグロマックス水和剤 (プロピザミド 50%) 200～300g	1. 水 100ℓに溶かし噴霧機で均一に散布する。	1. 露出した根にかかると葉害を生ずることがあるので、根の露出したほ場では使用を避ける。
定植後 (雑草発生前) 全面土壌散布	一年生雑草	モーティブ乳剤 (ジメチアト P 19.7%、ペンテメタリン 23.1%) 400mℓ	1. 水 100ℓに溶かして噴霧機で均一に散布する。	
秋播栽培の早春期 (雑草生育初期) 雑草茎葉散布	畑地一年生広葉雑草	アクチノール B 乳剤 (アイキシニル 30%) 150～160mℓ	1. 水 100ℓに溶かして噴霧機で均一に散布する。	1. 雑草によくかかるよう降雨期をさけて、均一に散布する。 2. 展着剤を加用しない。 3. 高温時処理は葉害をおこすので、処理時期は4月上旬までとする。 4. イネ科雑草には効果がないので、広葉雑草優占ほ場で使用する。 5. 茎葉処理剤であるため、他の土壌処理剤と併用する。 6. 魚毒性が強いので注意する。
雑草生育期 イネ科雑草 3～  5葉期 雑草茎葉散布	一年生イネ科雑草	セレクト乳剤 (クレジム 24%) 50～75mℓ	1. セレクトは水 100ℓ、ホーネストは 100～150ℓ、ワンサイド P は 70～100ℓに溶かし、噴霧機で均一に散布する。	1. イネ科作物に飛散しないように注意する。 2. たまねぎに付着しても生育に影響はない。 3. ワンサイド P は、スズメノカタビラには効果が劣る。
		ホーネスト乳剤 (テトラロキシジム 10%) 75～100mℓ		
一年生イネ科雑草 (スズメノカタビラを除く)	ワンサイド P 乳剤 (フルアジホップ P 17.5%) 75～100mℓ			

・参考農薬

薬剤名	対象雑草	使用方法	使用時期	使用量	使用回数	魚毒	備考
クレマートU粒剤	一年生雑草	全面土壌散布	春播栽培の定植後（雑草発生前）（但し、収穫60日前まで）	5～7kg/10a	1回（ブタムホス1回）	I	
			秋播栽培の定植後又は春季の雑草発生前（但し、収穫60日前まで）	4～6kg/10a			
グラメックス水和剤	一年生雑草	全面土壌散布	定植活着後（雑草発生前）（但し、収穫30日前まで）	100～200g/10a	1回（シアジン1回）	I	
バサグラン液剤（ナトリウム塩）	一年生雑草（イ科を除く）	雑草茎葉散布又は全面散布	秋播栽培の移植後、生葉4葉期まで（但し、収穫30日前まで）	60～120mℓ/10a	1回（ベンタゾン1回）	I	

- 注1) 使用回数の欄の記載は、収穫物への残留回避のため当該剤及びそれぞれの有効成分を含む農薬の総使用回数の制限を示す。  
 注2) 農薬のラベルに記載されている注意事項を必ず読む。  
 注3) 農薬登録上の作物名が標記の作物名と異なる場合、備考欄に記載した。

(27) ねぎ

薬剤名	使用方法	使用時期	使用回数	備考
ゴーゴーサン細粒剤F	全面土壌散布	定植後（雑草発生前）（但し、定植10日後まで）	1回（ペンデイメタリン1回）	

- 注1) 使用回数の欄の記載は、収穫物への残留回避のため当該剤及びそれぞれの有効成分を含む農薬の総使用回数の制限を示す。  
 注2) 農薬のラベルに記載されている注意事項を必ず読む。

防除時期及び処理法	対象雑草	除草剤の種類及び10a当り使用量	使用法	注意事項
定植後 雑草発生前 全面土壌散布	一年生雑草	ゴーゴーサン細粒剤F（ペンデイメタリン2.0%） 4～5kg	1. 散粒機を用いるなどして均一に散布する。	1. 定植10日後までに処理する。 2. キク科雑草及びツユクサには効果が劣るので、これらの優占ほ場では使用しない。 3. 適湿な土壌条件で処理する。

・参考農薬

薬剤名	対象雑草	使用方法	使用時期	使用量	使用回数	魚毒	備考
ナブ乳剤	一年生イ科雑草（スズメカサバを除く）	雑草茎葉散布又は全面散布	雑草生育期（イ科雑草3～5葉期）（但し、収穫30日前まで）	150～200mℓ/10a	1回（セトキンジム1回）	II	
バスタ液剤	一年生雑草	雑草茎葉散布	収穫前日まで（雑草生育期：定植前又は畦間処理）	300～500mℓ/10a	2回以内（グルホシネート及びグルホシネートP2回以内）	II	
ロロックス	一年生雑草	畦間土壌散布	定植後（但し、収穫30日前まで）（雑草発生前）	100～150g/10a	1回（リニューン1回）	I	ねぎ（露地栽培）

- 注1) 使用回数の欄の記載は、収穫物への残留回避のため当該剤及びそれぞれの有効成分を含む農薬の総使用回数の制限を示す。  
 注2) 農薬のラベルに記載されている注意事項を必ず読む。  
 注3) 農薬登録上の作物名が標記の作物名と異なる場合、備考欄に記載した。

## (28) ながいも (やまのいも)

薬剤名	使用方法	使用時期	使用回数	備考
コダールS水和剤	全面土壌散布	植付後萌芽前（雑草発生前）	1回（プロメトリン1回、メトラコロール及びS-メトラコロール1回）	
ゴーゴーサン乳剤	全面土壌散布	植付後萌芽前（雑草発生前）	1回（ペンテメタリン1回）	
デュアールゴールド	全面土壌散布	植付後萌芽前（雑草発生前）	1回（メトラコロール及びS-メトラコロール1回）	
トレファノサイド粒剤2.5	全面土壌散布	植付直後	1回（トリフルリン1回）	
	畦間土壌散布	生育初期（但し、植付30日後まで）		
トレファノサイド乳剤	全面土壌散布	植付直後		
	畦間土壌散布	生育初期（但し、植付30日後まで）		
ホーネスト乳剤	雑草茎葉散布又は全面散布	雑草生育期（イネ科雑草3～5葉期）（但し、収穫30日前まで）	1回（テブラロキシム1回）	

注1) 使用回数の欄の記載は、収穫物への残留回避のため当該剤及びそれぞれの有効成分を含む農薬の総使用回数の制限を示す。

注2) 農薬のラベルに記載されている注意事項を必ず読む。

防除時期及び処理法	対象雑草	除草剤の種類及び10a当り使用量	使用法	注意事項
植付直後 全面土壌散布  生育初期 畦間土壌散布	一年生雑草（ツユクサ科、カヤツリグサ科、キク科、アブラナ科を除く）	トレファノサイド粒剤2.5（トリフルリン2.5%） 5kg	1. 散粒機又は土で増量し均一に散布する。	1. 広葉雑草も対象になるが効果はやや劣る。 2. 生育初期処理は定植後30日以内とする。 3. 剤型は2種類あるが、いずれかで1作1回処理する。
		トレファノサイド乳剤（トリフルリン44.5%） 250ml	1. 水100ℓに溶かし、噴霧機で均一に散布する。	
植付後萌芽前（雑草発生前）  全面土壌散布	一年生雑草（ツユクサ科、カヤツリグサ科、キク科、アブラナ科を除く）	ゴーゴーサン乳剤（ペンテメタリン30%） 200～400ml	1. 水100ℓに溶かし、噴霧機で均一に散布する。	1. キク科雑草及びツユクサには効果が劣るので、これらの優占ほ場では使用しない。 2. 適湿な土壌条件で処理する。
		コダールS水和剤（プロメトリン26.6%、S-メトラコロール24.8%） 225～300g	1. 水100ℓに溶かし、噴霧機で均一に散布する。	
		デュアールゴールド（S-メトラコロール83.7%） 70～130ml		

防除時期及び処理法	対象雑草	除草剤の種類及び10a当り使用量	使用法	注意事項
雑草生育期 イネ科雑草3～5葉期  雑草茎葉散布	一年生イネ科雑草	ホーネスト乳剤 (テトラロキシム 10%) 75～100ml	1. 水 100ℓ に溶かし、噴霧機で均一に散布する。	1. イネ科作物に飛散しないように注意する。 2. やまのいもに付着しても、生育に影響はない。 3. 遅効性で完全枯死までにやや時間を要する。

・参考農薬

薬剤名	対象雑草	使用方法	使用時期	使用量	使用回数	魚毒	備考
ロロックス	一年生雑草	全面土壌散布	植付直後	100～200g/10a	2回以内(リニuron) 2回以内(但し、粒剤は1回以内)	I	
		畦間土壌散布	生育期(但し、収穫60日前まで) (雑草発生前～発生揃期)				

注1) 使用回数の欄の記載は、収穫物への残留回避のため当該剤及びそれぞれの有効成分を含む農薬の総使用回数の制限を示す。

注2) 農薬のラベルに記載されている注意事項を必ず読む。

(29) ばれいしょ

薬剤名	使用方法	使用時期	使用回数	備考
レグロックス	茎葉散布	開花後30日～黄変期(茎葉繁茂期)(但し、収穫14日前まで) 黄変期～枯凋期(但し、収穫14日前まで)	1回(ｼﾞｯｸｯﾄ2回以内(但し、茎葉枯凋は1回以内))	使用目的: 茎葉枯凋
	雑草茎葉散布	雑草生育期(黄変期～枯凋期)(但し、収穫14日前まで)	2回以内(ｼﾞｯｸｯﾄ2回以内(但し、茎葉枯凋は1回以内))	
ロロックス	全面土壌散布	植付直後～萌芽前	1回(リニuron 1回)	

注1) 使用回数の欄の記載は、収穫物への残留回避のため当該剤及びそれぞれの有効成分を含む農薬の総使用回数の制限を示す。

注2) 農薬のラベルに記載されている注意事項を必ず読む。

防除時期及び処理法	対象雑草	除草剤の種類及び10a当り使用量	使用法	注意事項
植付直後～萌芽前 全面土壌散布	一年生雑草	ロロックス (リニuron 50%) 150g	1. 水 100ℓ に溶かし、噴霧機で均一に散布する。	1. 覆土は丁寧に行い、土壌面はなるべく平滑にする。 2. 付近の作物にかからないように散布する。 3. 散布直後に多量の降雨が予想される場合は散布を延期する。 4. 培土は萌芽後25～30日位に実施する。

防除時期及び処理法	対象雑草	除草剤の種類及び10a当り使用量	使用法	注意事項
雑草生育期 (黄変期～枯凋期) 雑草茎葉散布	一年生雑草	レグロックス (ジクワット 31.8%) 300mℓ	1. 水 100ℓ に溶かし、噴霧機で均一に散布する。	1. 茎葉、雑草によくかかるよう均一に散布する。 2. 腐食性があるので器具の取扱いに注意する。 3. 人畜には毒性は小さいが、劇物であるので、吸ったり、皮ふにつけないように注意する。 4. 散布後数時間、降雨のない時に散布する。 5. 露出したものは被害をうけるので、培土を十分する。 6. 付近の作物にかからないように散布する。 7. 茎葉枯凋の目的で使用する場合、展着剤は加用しない。
雑草生育期 (黄変期～枯凋期) 雑草茎葉散布				

・参考農薬

薬剤名	対象雑草	使用方法	使用時期	使用量	使用回数	魚毒	備考
クリアターン 細粒剤F	一年生雑草	全面土壌散布	植付後～萌芽前 (雑草発生前)	4～5kg/10a	1回(ベンチカーブ) 1回、ペンテイタリン1回、リニロン1回)	I	
バスタ液剤	一年生雑草	雑草茎葉散布	雑草生育期耕起前・植付前・植付後萌芽直前	100～200mℓ/10a	1回(ケルホネート及びケルホネートP3回以内(但し、萌芽前は1回以内、萌芽後は2回以内))	II	

注1) 使用回数の欄の記載は、収穫物への残留回避のため当該剤及びそれぞれの有効成分を含む農薬の総使用回数の制限を示す。

注2) 農薬のラベルに記載されている注意事項を必ず読む。

### (30) さといも

・参考農薬

薬剤名	対象雑草	使用方法	使用時期	使用量	使用回数	魚毒	備考
コンボラル	一年生雑草(ユクサ、キ科を除く)	全面土壌散布	植付直後	4～6kg/10a	1回(トリフルリン1回、ペンテイタリン2回以内(但し、土寄せ後の処理は1回以内))	I	
ナブ乳剤	一年生イネ科雑草(スズメノカタビラを除く)	雑草茎葉散布 又は全面散布	雑草生育期(イネ科雑草3～5葉期) (但し、収穫30日前まで)	150～200mℓ/10a	1回(セトキシジム1回)	II	
バスタ液剤	一年生雑草	雑草茎葉散布	収穫30日前まで (雑草生育期: 耕起前・植付前又は畦間処理)	300～500mℓ/10a	3回以内(ケルホネート及びケルホネートP3回以内)	II	
ロックス	一年生雑草	全面土壌散布	植付直後	100～200g/10a	1回(リニロン1回)	I	

注1) 使用回数の欄の記載は、収穫物への残留回避のため当該剤及びそれぞれの有効成分を含む農薬の総使用回数の制限を示す。

注2) 農薬のラベルに記載されている注意事項を必ず読む。

## (32) だいこん

薬剤名	使用方法	使用時期	使用回数	備考
トレファノサイド乳剤	全面土壌散布	は種直後	1回(トリフルリン1回)	だいこん (露地栽培)

注1) 使用回数の欄の記載は、収穫物への残留回避のため当該剤及びそれぞれの有効成分を含む農薬の総使用回数の制限を示す。

注2) 農薬のラベルに記載されている注意事項を必ず読む。

注3) 農薬登録上の作物名が標記の作物名と異なる場合、備考欄に記載した。

防除時期及び処理法	対象雑草	除草剤の種類及び10a当り使用量	使用法	注意事項
は種直後 全面土壌散布	一年生雑草 (ツユクサ科、カヤツリグサ科、キク科、アブラナ科を除く)	トレファノサイド乳剤 (トリフルリン 44.5%) 150~200ml	1. 水 100ℓに溶かして噴霧機で均一に散布する。	1. 砂質土壌では薬害の恐れがあるので薬量を減らす。 2. マルチ・トンネル栽培では薬害が出やすいので使用しない。 3. キク科、アブラナ科に効果が劣るので、草種により使い分ける。 4. 過湿、過乾燥土壌での使用は避ける。

### ・参考農薬

薬剤名	対象雑草	使用方法	使用時期	使用量	使用回数	魚毒	備考
バスタ液剤	一年生雑草	雑草茎葉散布	収穫 45 日前まで (雑草生育期：は種前又は畦間処理)	300~500ml /10a	2 回以内 (ケルホシネット及びケルホシネット P2 回以内)	II	
ラッソー乳剤	一年生雑草	全面土壌散布	は種直後	150ml /10a	1 回(アラクロール 1 回)	I	

注1) 使用回数の欄の記載は、収穫物への残留回避のため当該剤及びそれぞれの有効成分を含む農薬の総使用回数の制限を示す。

注2) 農薬のラベルに記載されている注意事項を必ず読む。

注3) 農薬登録上の作物名が標記の作物名と異なる場合、備考欄に記載した。

## (33) かぶ

### ・参考農薬

薬剤名	対象雑草	使用方法	使用時期	使用量	使用回数	魚毒	備考
バスタ液剤	一年生雑草	雑草茎葉散布	収穫 21 日前まで (雑草生育期：耕起前・は種前又は畦間処理) は種前 (雑草生育期)	300~500ml /10a	2 回以内 (ケルホシネット及びケルホシネット P2 回以内)	II	
ラッソー乳剤	一年生雑草	全面土壌散布	は種直後	150ml /10a	1 回 (アラクロール 1 回)	I	

注1) 使用回数の欄の記載は、収穫物への残留回避のため当該剤及びそれぞれの有効成分を含む農薬の総使用回数の制限を示す。

注2) 農薬のラベルに記載されている注意事項を必ず読む。

注3) 農薬登録上の作物名が標記の作物名と異なる場合、備考欄に記載した。

### (34) にんじん

薬剤名	使用方法	使用時期	使用回数	備考
トレファノサイド乳剤	全面土壌散布	は種直後	1回(トリフルリン1回)	
ロロックス	全面土壌散布	にんじん3～5葉期(但し、収穫30日前まで)(雑草発生始期)	1回(リニuron2回以内(但し、は種直後は1回以内、にんじん3～5葉期は1回以内))	
		は種直後		

注1) 使用回数の欄の記載は、収穫物への残留回避のため当該剤及びそれぞれの有効成分を含む農薬の総使用回数の制限を示す。

注2) 農薬のラベルに記載されている注意事項を必ず読む。

防除時期及び処理法	対象雑草	除草剤の種類及び10a当り使用量	使用法	注意事項
は種直後 全面土壌散布	一年生雑草	ロロックス (リニuron 50%) 100～200g	1. 水100ℓに溶かして噴霧機で均一に散布する。	1. 畑の湿っている時を選んで均一に散布する。 2. 生育期処理の場合は、にんじんの株元にもかかるように散布する。 3. にんじんの本葉1～2葉期に散布すると薬害を起すので使わない。
にんじん本葉3～5葉期 雑草発生始期 全面土壌散布		ロロックス (リニuron 50%) 100～150g		
は種直後 全面土壌散布	一年生雑草 (ツユクサ科、カヤツリグサ科、キク科、アブラナ科を除く)	トレファノサイド乳剤 (トリフルリン 44.5%) 250～300mℓ		

#### ・参考農薬

薬剤名	対象雑草	使用方法	使用時期	使用量	使用回数	魚毒	備考
クリアターン細粒剤F	一年生雑草	全面土壌散布	は種直後(雑草発生前)	4～5kg/10a	1回(ベンチカーブ1回、ベンティメタリン1回、リニuron2回以内(但し、は種直後は1回以内、にんじん3～5葉期は1回以内))	I	
クレマートU粒剤	一年生雑草	全面土壌散布	は種後発芽前(雑草発生前)	4～6kg/10a	1回(フタホス1回)	I	
ホーネスト乳剤	一年生イネ科雑草	雑草茎葉散布又は全面散布	雑草生育期(イネ科雑草3～5葉期)(但し、収穫30日前まで)	75～100mℓ/10a	1回(テフロキシム1回)	I	

注1) 使用回数の欄の記載は、収穫物への残留回避のため当該剤及びそれぞれの有効成分を含む農薬の総使用回数の制限を示す。

注2) 農薬のラベルに記載されている注意事項を必ず読む。

## (35) ごぼう

・参考農薬

薬剤名	対象雑草	使用方法	使用時期	使用量	使用回数	魚毒	備考
アグロマックス水和剤	一年生雑草 (キ科、カツリグサ科を除く)	全面土壌散布	は種後発芽前(雑草発生前)	200～300g/10a	1回(プロピサミド 1回)	I	
トレファノサイド乳剤	一年生雑草 (ツクサ科、カツリグサ科、キ科、アブラナ科を除く)	全面土壌散布	は種直後	200～300ml/10a	1回(トリフルリン 1回)	I	ごぼう(露地栽培)
ナブ乳剤	一年生イネ科雑草(スズメカビラを除く)	雑草茎葉散布又は全面散布	雑草生育期(イネ科雑草3～5葉期)(但し、収穫30日前まで)	150～200ml/10a	1回(セトキシメド 1回)	II	

注1) 使用回数の欄の記載は、収穫物への残留回避のため当該剤及びそれぞれの有効成分を含む農薬の総使用回数の制限を示す。

注2) 農薬のラベルに記載されている注意事項を必ず読む。

注3) 農薬登録上の作物名が標記の作物名と異なる場合、備考欄に記載した。

## (36) やまごぼう (もりあざみ)

・参考農薬

薬剤名	対象雑草	使用方法	使用時期	使用量	使用回数	魚毒	備考
アグロマックス水和剤	一年生雑草 (キ科、カツリグサ科を除く)	全面土壌散布	は種後発芽前(雑草発生前)	150～200g/10a	1回(プロピサミド 1回)	I	
バスタ液剤	一年生雑草	雑草茎葉散布	収穫30日前まで(雑草生育期:耕起前・は種前又は畦間処理)	300～500ml/10a	3回以内(ケルホネト3回以内)	II	

注1) 使用回数の欄の記載は、収穫物への残留回避のため当該剤及びそれぞれの有効成分を含む農薬の総使用回数の制限を示す。

注2) 農薬のラベルに記載されている注意事項を必ず読む。

## (37) その他野菜

・参考農薬

品目	薬剤名	対象雑草	使用方法	使用時期	使用量	使用回数	魚毒	備考
ゆうがお	トレファノサイド粒剤 2.5	一年生雑草 (ツクサ科、カツリグサ科、キ科、アブラナ科を除く)	全面土壌散布	定植キップ後(雑草発生前)(但し、収穫75日前まで)	4～6kg/10a	1回(トリフルリン 1回)	I	
はつかだいこん	トレファノサイド乳剤	一年生雑草 (ツクサ科、カツリグサ科、キ科、アブラナ科を除く)	全面土壌散布	は種直後	150～200ml/10a	1回(トリフルリン 1回)	I	はつかだいこん(露地栽培)
非結球あぶらな科葉菜類	トレファノサイド乳剤	一年生雑草 (ツクサ科、カツリグサ科、キ科、アブラナ科を除く)	全面土壌散布	は種直後	150～200ml/10a	1回(トリフルリン 1回)	I	



品目	薬剤名	対象雑草	使用方法	使用時期	使用量	使用回数	魚毒	備考
にんにく	コンボラル	一年生雑草 (ツクサ、キ科を除く)	全面土壌散布	植付前～植付後 (但し、収穫90日前まで)	4～6kg/10a	1回(トリフルリン2回以内、ベンデメタリン1回)	I	
	ナブ乳剤	一年生イネ科雑草(スズメカビラを除く)	雑草茎葉散布又は全面散布	雑草生育期(イネ科雑草3～5葉期) (但し、収穫7日前まで)	150～200ml/10a	1回(セトキシジム1回)	II	
	ロロックス	一年生雑草	全面土壌散布	植付後～萌芽前(雑草発生前)	100～150g/10a	1回(リニロン1回)	I	
わけぎ	クレマート乳剤	一年生雑草	全面土壌散布	定植活着後(雑草発生前) (但し、定植10日後まで)	200～400ml/10a	1回(ブタホス1回)	I	
あさつき	クレマート乳剤	一年生雑草	全面土壌散布	定植活着後(雑草発生前) (但し、定植10日後まで)	200～400ml/10a	1回(ブタホス1回)	I	
らっきょう	トレファノサイド乳剤	一年生雑草 (ツクサ科、カヅリガサ科、キ科、アブナ科を除く)	全面土壌散布	植付後、春期雑草発生前 (但し、収穫120日前まで)	200～300ml/10a	2回以内(トリフルリン2回以内)	I	らっきょう(露地栽培)
にら	ナブ乳剤	一年生イネ科雑草(スズメカビラを除く)	雑草茎葉散布又は全面散布	雑草生育期(イネ科雑草3～5葉期) (但し、収穫前日まで)	150～200ml/10a	1回(セトキシジム1回)	II	
	ロロックス	一年生雑草	全面土壌散布	収穫30日前まで(雑草発生前)	100～150g/10a	1回以内(リニロン1回)	I	
豆類(未成熟)	ナブ乳剤	一年生イネ科雑草(スズメカビラを除く)	雑草茎葉散布又は全面散布	雑草生育期(イネ科雑草3～5葉期) (但し、収穫14日前まで)	150～200ml/10a	1回(セトキシジム1回)	II	

注1) 使用回数の欄の記載は、収穫物への残留回避のため当該剤及びそれぞれの有効成分を含む農薬の総使用回数の制限を示す。

注2) 農薬のラベルに記載されている注意事項を必ず読む。

注3) 農薬登録上の作物名が標記の作物名と異なる場合、備考欄に記載した。

### (38) しゃくやく (薬用)

薬剤名	使用方法	使用時期	使用回数	備考
タッチダウン i Q	雑草茎葉散布	畦間処理：雑草生育期 (但し収穫7日前まで)	3回以内(グリホサート3回以内)	
トレファノサイド乳剤	全面土壌散布	萌芽前(雑草発生前)	5回以内(但し、1年間に1回以内)(トリフルリン5回以内)(但し、1年間に1回以内)	

注1) 使用回数の欄の記載は、収穫物への残留回避のため当該剤及びそれぞれの有効成分を含む農薬の総使用回数の制限を示す。

注2) 農薬のラベルに記載されている注意事項を必ず読む。

防除時期及び処理法	対象雑草	除草剤の種類及び10a当り使用量	使用法	注意事項
生育期 畦間雑草茎葉散布 (雑草生育期)	一年生雑草	タッチダウン iQ (グリホサート・カリウム塩 44.7%) 250～500ml	1. 水 25～100ℓに溶かして均一に散布する。少水量散布の際には、専用ノズルを使用する。	1. しやくやく及び周囲の作物に飛散しないように注意する。 2. タッチダウン iQ は、魚毒に注意する。
萌芽前 (雑草発生前) 全面土壌散布	一年生雑草 (ツユクサ科、カヤツリグサ科、キク科、アブラナ科を除く)	トレファノサイド乳剤 (トリフルアリン 44.5%) 300ml	1. 水 100ℓに溶かして均一に散布する。	

### (39) とうき (薬用)

・参考農薬

薬剤名	対象雑草	使用方法	使用時期	使用量	使用回数	魚毒	備考
ゴーゴーサン乳剤	一年生雑草	全面土壌散布	定植後(雑草発生前)(但し、収穫120日前まで)	300ml/10a	1回(ペンデメタリン1回)	I	

注1) 使用回数の欄の記載は、収穫物への残留回避のため当該剤及びそれぞれの有効成分を含む農薬の総使用回数の制限を示す。

注2) 農薬のラベルに記載されている注意事項を必ず読む。

注3) キク科雑草とツユクサには効果が劣るので、これらの優占圃場では使用しない。

### (40) かのこそう (薬用)

・参考農薬

薬剤名	対象雑草	使用方法	使用時期	使用量	使用回数	魚毒	備考
トレファノサイド乳剤	一年生雑草 (ツユクサ科、カヤツリグサ科、キク科、アブラナ科を除く)	全面土壌散布	定植後萌芽前(雑草発生前)(但し、収穫120日前まで)	300ml/10a	1回(トリフルアリン1回)	I	

注1) 使用回数の欄の記載は、収穫物への残留回避のため当該剤及びそれぞれの有効成分を含む農薬の総使用回数の制限を示す。

注2) 農薬のラベルに記載されている注意事項を必ず読む。

(31) こんにやく

薬剤名	使用方法	使用時期	使用回数	備考
ゴーゴーサン細粒剤F	全面土壌散布	植付後又は培土後 (雑草発生前) (但し、植付 30 日後まで)	1 回(ペンデイメリン 1 回)	
ゴーゴーサン乳剤				
コンボラル	全面土壌散布	植付後、培土後(萌芽前)	1 回(トリフルリン 2 回以内、ペンデイメリン 1 回)	
トレファノサイド粒剤 2.5	全面土壌散布	植付直後、中耕培土直後(萌芽前)	2 回以内(トリフルリン 2 回以内)	
トレファノサイド乳剤				
プリグロックスL	雑草茎葉散布	畦間処理：雑草生育期(但し、収穫 30 日前まで)	3 回以内(ジクカット 3 回以内、ハラコート 3 回以内)	
		植付後～萌芽直前		

注1) 使用回数の欄の記載は、収穫物への残留回避のため当該剤及びそれぞれの有効成分を含む農薬の総使用回数の制限を示す。

注2) 農薬のラベルに記載されている注意事項を必ず読む。

注3) 使用回数は栽培期間内での回数であり、掘り上げない栽培の場合は、年をまたいだ収穫までの総使用回数なので、間違えないように注意する。

防除時期及び処理法	対象雑草	除草剤の種類及び 10a 当り使用量	使用法	注意事項
植付直後、中耕培土直後(萌芽前) 全面土壌散布	一年生雑草(ツユクサ科、カヤツリグサ科、キク科、アブラナ科を除く)	トレファノサイド乳剤 (トリフルリン 44.5%) 250ml	1. 水 100ℓ に溶かし、噴霧機で均一に散布する。	1. 既に発生している雑草には除草効果が劣るので処理時期が遅れないように散布する。 2. トレファノサイドは広葉雑草に効果が劣るので、イネ科一年生雑草の優占するほ場で使用する。
		トレファノサイド粒剤 2.5 (トリフルリン 2.5%) 5 kg	1. 手または散粒機で均一に散布する。	
植付後又は培土後(雑草発生前) (但し、植付 30 日後まで) 全面土壌散布	一年生雑草	ゴーゴーサン乳剤 (ペンデイメリン 30%) 200~300ml	1. 水 100ℓ に溶かし、噴霧機で均一に散布する。	3. ゴーゴーサン、コンボラルはツユクサ、キク科雑草に効果が劣るので、これらの優占ほ場では使用しない。 4. 除草効果を高めるため砕土整地はていねいに行う。 5. 激しい降雨が予想される場合は散布しない。 6. 土壌が極端に乾いている場合は効果が劣るので、適湿時または適当に湿らせてから散布する。 7. 重複散布すると葉害を生じやすく、風によってまきむらを生じやすいので風の無い日を選んで均一に散布する。
		ゴーゴーサン細粒剤 F (ペンデイメリン 2%) 5~6 kg	1. 手または散粒機で均一に散布する。	
植付後、培土後(萌芽前) 全面土壌散布	一年生雑草(ツユクサ、キク科を除く)	コンボラル (トリフルリン 1.2%、ペンデイメリン 1.2%) 4~6 kg	1. 手または散粒機で均一に散布する。	

防除時期及び処理法	対象雑草	除草剤の種類及び10a 当り使用量	使用法	注意事項
植付後～萌芽直前 畦間処理:雑草生育期(但し、収穫30日前まで)  雑草茎葉散布	一年生雑草	プリグロックスL (ジクワット 7%、 パラコート 5%) 600～800ml	1. 水 100～150ℓに溶かし、 噴霧機で雑草の茎葉に均一に散布する。	1. 脱苞後のこんにやくは、 薬害が発生しやすいので、 出芽前処理はこんにやくの 出芽直前に行う。 2. 生育期処理はこんにやくの 茎葉に薬液がかかると薬害が 生じるので飛散防止カバーを 使用するなど、注意して散布 する。 3. こんにやくの倒伏期以降は 球茎に薬害を生じるおそれ があるので使用しない。 4. 雑草が大きい時期は 10a 当たり薬量を 800ml とする。 5. 散布後数時間、降雨のない 時に散布する。 6. 除草剤用の展着剤を加用 する。 7. 付近の作物にかからない ように注意する。

こんにやく雑草防除体系

